

サクッとわかる **日商2級工業簿記** テキスト

2級工業簿記 「仕訳コレクション」



ネットスクール出版

2級工業簿記

第2章

①材 料 費

サクッとわかる **テキスト**
ネットスクール出版



材料5,000円を掛けで購入した。引取運賃500円を現金で支払った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
材	料	5,500	買掛	金	5,000
			現	金	500

以前に掛けで購入した材料のうち550円分を返品し、代金は買掛金を減額することとした。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買 掛 金	550	材 料	550

材料1,000円を消費した。なお、直接材料費は800円、間接材料費は200円である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 掛 品	800	材 料	1,000
製 造 間 接 費	200		

材料の月末帳簿数量は10kg、実地棚卸数量は8kgであった（消費単価は@14円）。棚卸減耗の数量は通常生じる程度のものである。

借方科目	金額	貸方科目	金額
製造間接費	28	材 料	28

★ @14円 × (10kg - 8kg) = 28円

直接材料として材料10kgを消費した。なお、材料費の計算は予定単価（@10円）を用いる。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	100	材料	100

★ @10円×10kg=100円

当月の材料の実際単価は@14円であった。材料費の計算は予定単価（@10円）を用いて計算しており、当月の材料消費量は10kgであった。材料消費価格差異を計上する仕訳を示しなさい。

借方科目	金額	貸方科目	金額
材料消費価格差異	40	材 料	40

★ $(@10円 \times 10kg) - (@14円 \times 10kg) = \triangle 40円$

予定消費額 実際消費額

当月の材料の実際単価は@9円であった。材料費の計算は予定単価（@10円）を用いて計算しており、当月の材料消費量は10kgであった。材料消費価格差異を計上する仕訳を示しなさい。

借方科目	金額	貸方科目	金額
材 料	10	材料消費価格差異	10

★ $(\text{@}10\text{円} \times 10\text{kg}) - (\text{@}9\text{円} \times 10\text{kg}) = 10\text{円}$

予定消費額 実際消費額

材料100円（購入代価）を掛けて購入した。購入代価に対して10%の材料副費を予定配賦する。

借方科目	金額	貸方科目	金額
材 料	110	買 掛 金	100
		材 料 副 費	10

★ $100円 \times 10\% = 10円$

2級工業簿記

第3章

② 労務費

サクッとわかる テキスト
ネットスクール出版



当月の賃金1,000円のうち、所得税100円と社会保険料40円を控除した残額（860円）を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
賃金・給料	1,000	預り金	140
		現金	860

当月の賃金支払額は2,000円であった。前月末払額は200円、当月未払額は300円であった。当月の賃金消費額を計算しなさい。

$$2,000\text{円} + 300\text{円} - 200\text{円} = 2,100\text{円}$$

当月の直接工の作業時間は次のとおりである。
賃金消費時の仕訳をしなさい。なお、直接工の消費賃率は@100円を用いて計算する。

直接工の作業時間：直接作業時間 10時間
間接作業時間 2時間

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	1,000	賃金・給料	1,200
製造間接費	200		

① @100円×10時間=1,000円

② @100円×2時間=200円

当月の間接工の賃金消費額は600円であった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
製造間接費	600	賃金・給料	600

直接工の直接作業時間は10時間であった。賃金消費時の仕訳をしなさい。直接工の賃金は予定賃率（@150円）を用いて計算する。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 掛 品	1,500	賃 金・ 給 料	1,500

★ @150円×10時間=1,500円

当月の直接工賃金の実際消費額は1,600円であった。直接工の賃金は予定賃率（@150円）を用いて計算しており、当月の実際直接作業時間は10時間であった。賃率差異を計上する仕訳を示しなさい。

借方科目	金額	貸方科目	金額
賃率差異	100	賃金・給料	100

★ @150円×10時間－1,600円＝△100円

当月の直接工賃金の実際消費額は1,300円であった。直接工の賃金は予定賃率（@150円）を用いて計算しており、当月の実際直接作業時間は10時間であった。賃率差異を計上する仕訳を示しなさい。

借方科目	金額	貸方科目	金額
賃金・給料	200	賃率差異	200

★ @150円×10時間－1,300円＝200円

2級工業簿記

第4・13章

③ 経 費

④ 本社工場会計

サクッとわかる テキスト
ネットスクール出版



当月の外注加工賃は20,000円（現金払い）、減価償却費（1カ月分）は1,000円であった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	20,000	現金	20,000
製造間接費	1,000	減価償却累計額	1,000

本社で材料100円を掛けで購入した。材料は工場の倉庫で受け入れた。工場の仕訳を示しなさい。
【工場の勘定】

材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、製品、
本社

借方科目	金額	貸方科目	金額
材 料	100	本 社	100

★取引の仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
材 料	100	買掛金	100

工場で材料（直接材料費50円、間接材料費20円）を消費した。工場の仕訳を示しなさい。

【工場の勘定】

材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、製品、本社

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	50	材 料	70
製造間接費	20		

製品90円が完成した。工場の仕訳を示しなさい。

【工場の勘定】

材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、製品、
本社

借方科目	金額	貸方科目	金額
製 品	90	仕 掛 品	90

本社は得意先に製品120円を掛けて売り上げた。
工場は、本社の指示にしたがい、製品（原価90円）
を本社の得意先に送った。工場の仕訳を示しなさい。

【工場の勘定】

仕掛品、製品、本社

借方科目	金額	貸方科目	金額
本 社	90	製 品	90

★取引の仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上原価	90	製 品	90
売 掛 金	120	売 上	120